

1 3 最先端技術活用ロボット普及啓発事業

特区で開発を支援したロボットを3D・AR・メタバース空間・VRなどの最先端技術を活用して、ロボットのイメージを立体的に閲覧・体験できるコンテンツを公開し、生活支援ロボットの普及を図ります。



<https://sagamirobot.pref.kanagawa.jp/virtual/>

問合せ ▶ D

3 生活支援ロボットのモニター制度

生活支援ロボットの購入やリースを考えているモニター(介護施設等や個人)を県が募集し、一定期間ロボットを試用していただくことで導入促進を図ります。

- モニターからのアンケート結果を提供しますので、製品改良にお役立てください。
- モニター期間は、1週間～1ヶ月となっていますが、任意の期間設定も可能です。
- ロボットはメーカーからモニターに持参又は配達していただきます。



モニター募集の詳細は▶

問合せ ▶ B

3 ロボット導入支援補助金

特区の取組を活用して商品化された生活支援ロボットに対して、民間施設等への導入促進を図るため、導入にかかる経費を補助します。

※詳細は補助金交付要綱をご確認ください。

補助率 1/3

1申請者あたり

上限額
100万円

上限台数
なし



DX清掃ロボット
BROIT

問合せ ▶ D



弊社は
中小企業ですが
県のサポートを活用し、
製品の知名度も上がり、
商品の紹介(宣伝)、
購入費用の一部
負担の援助も受け、
企業としての信用度も
上がりました。

実際に
特区支援を利用した方の声

さがみロボット産業特区 各種問合せ先 支援メニューごとの問合せ先をご確認ください。

問合せ A

地方独立行政法人 神奈川県立産業技術総合研究所 企画部 情報戦略課

電話 046-236-1500(代表)

所在地 海老名市下今泉 705-1

問合せ B

産業労働局産業部産業振興課 海老名駐在事業所(さがみロボット産業特区推進センター)

電話 046-236-1577 / 046-236-1578

所在地 海老名市下今泉 705-1 神奈川県立産業技術総合研究所 2階

問合せ C

地方独立行政法人 神奈川県立産業技術総合研究所 事業化支援部 橋渡し支援課

電話 046-236-1500(代表)

所在地 海老名市下今泉 705-1

問合せ D

産業労働局産業部産業振興課 さがみロボット産業特区グループ

電話 045-210-5650 / 045-210-5652

所在地 横浜市中区日本大通 1 本庁舎 2階



私たち一人ひとりの行動が、
未来につながる。

SDGs 未来都市

神奈川県



さがみ 特区

検索

問合せ先(総合): 神奈川県産業労働局産業部産業振興課海老名駐在事務所(さがみロボット産業特区推進センター)

電話 046-236-1577/046-236-1578 海老名市下今泉 705-1 神奈川県立産業技術総合研究所2階

その技術を さがみロボット産業特区へ!

サービスロボット分野は、今後ますます市場が拡大します。



配膳作業及びPRができる

広告周回用・配送ロボット CADEBOT

正面ディスプレイは22インチと大きく、広告はクラウド上から簡単に設定することができ、動くサイネージとして活用可能です。



脳梗塞リハビリ補助機器

パワーアシスト まいりハ

空気圧によって、安全に優しく指を曲げたり伸ばしたりすることで、リハビリを助けます。

うちの部品も
特区の支援を受けられるの?

こんな技術も
もっていませんか?

様々な技術や商品が
ロボットには使われています!



©TEZUKA PRODUCTIONS



人と強調して運搬・搬送する
協働運搬ロボット サウザースタンダード

簡単操作で自動走行し、重量物搬送に用いることができます。日々の運搬業務に伴う身体的な負担の軽減に活躍できます。

コンパクトなスペースでの清掃ができる

屋内小型業務用清掃ロボット JINNY20

広さ10,000㎡でも自立走行が可能で100以上のマップの保存が出来ます。複数の清掃パターンで様々な床面に対応可能です。

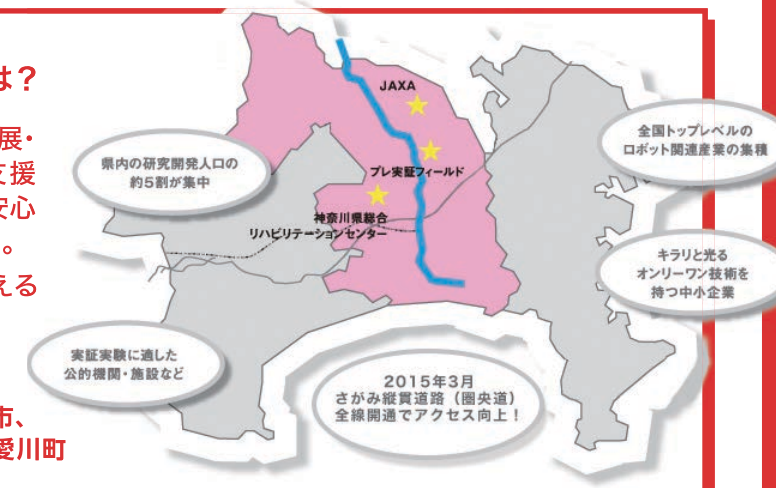


さがみロボット産業特区とは?

「さがみロボット産業特区」は、少子高齢化の進展・自然災害への対応などの課題に対し、生活支援ロボットの実用化を通じて「県民生活の安全・安心の確保」や「県内経済の活性化」を図る取組です。

ロボットが社会に溶け込み、いのちや生活を支えるパートナーとして共生する社会の実現を目指しています。

対象地域: 相模原市、平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、厚木市、大和市、伊勢原市、海老名市、座間市、綾瀬市、寒川町、愛川町



STEP 1 ロボット産業参入支援

1 3 ロボット企業交流拠点事業

ロボット企業や県内中小企業、部品製造業、大学等が交流する2か所（橋本:FUN+TECH LABO（注記）、藤沢:ロボリンク）の拠点において、商談・協業の機会を提供するとともに、ネットワーク形成を促進します。また、ロボリンクには展示スペースを設け、ロボットが活用できる県内施設や地域住民等に、ロボットに無料で触れる機会を提供することにより、生活支援ロボットの普及を図ります。

※「FUN+TECH LABO」という名称は、東海旅客鉄道株式会社（JR東海）の登録商標です。

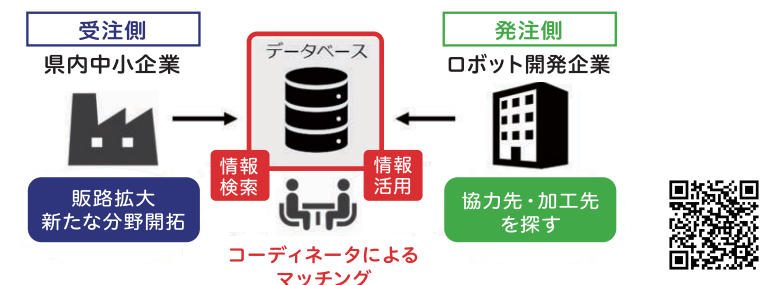


問合せ ▶ D



1 中小企業ロボット産業参入促進事業

県内中小企業のロボット産業への参入を促進するために、企業やロボット部品等に関する情報収集を行い、ロボット開発企業と県内中小企業の受発注マッチングをより効果的にを行います。販路拡大や新しい事業へのきっかけ作りでビジネスの成功を後押しします。



問合せ ▶ D



1 ロボット技術マッチングサイト



さがみロボット産業特区のウェブサイト上で「ロボット技術マッチングサイト」を公開しています。ロボットに活用できる中小企業等の「優れた技術」を発信することで、企業の技術マッチングを促進します。

掲載企業を随時募集しています
詳細は ▶



問合せ ▶ B

1 展示会への出展支援

大規模なロボット専門展示会内で、県内企業等による、生活支援ロボットや幅広いモノづくりに関する製品・技術のPR及び販路開拓、企業交流の場として、商談展示会を開催します。

- 通常の出展料よりもリーズナブルな価格で出展できます。
- 特設ステージで、プレゼンテーションやデモを無料で行えます。
- 会場内で、行政や支援団体にご相談等ができます。

詳細は ▶



問合せ ▶ B

1 2 ロボット研究会・神奈川版オープンイノベーション

ロボット研究会では、オープンなフォーラムや交流会等を開催し、相互に技術課題を解決するための共同研究開発グループの形成と技術連携の促進を目指します。県内に本社・拠点のある企業・大学等はもちろん、ロボット産業に興味のある県外の企業・大学等も無料で参加が可能です。

神奈川版オープンイノベーションでは、ロボット研究会等でコーディネートされた研究開発プロジェクトを支援しています。また、ロボット関連企業の開発ニーズと県内中小企業等の「優れた技術」の技術マッチングを促進する交流会を開催します。



ロボット研究会
参加者募集中！



ロボット研究会への
参加お申し込みは

さがみ ロボット研究会 検索

問合せ ▶ A



STEP 2 開発・改良・実用化支援

1 2 介護ロボット実用化促進事業

介護施設、在宅介護が抱える課題を解決するため、介護現場に適したロボット等の試験導入及び効果検証を行うとともに、専門的な展示会等でロボット体験機会を提供し、介護施設等がより導入しやすい環境作りを行います。また、実証結果を分析するとともに、介護現場の課題に則したロボット改良を行う開発企業を支援することで、介護ロボット等の改良・開発を促進します。



問合せ ▶ D

2 ドローン開発支援事業

県内へのドローンの実用化・普及を促進するため、地域課題の解決に資するドローンの開発・実証実験を支援します。



イームズロボティクス株式会社
災害対応ドローン
「レスキューK」

開発プロジェクト

1,200万円 × 採択件数 2件程度

実証実験プロジェクト

800万円 × 採択件数 2件程度

問合せ ▶ D



1 2 3 ロボット実装促進事業

「ロボット実装促進センター」において、ロボットの活用が進んでいない施設に対して、その施設の課題を解決できるロボットとのマッチング及び実装をワンストップで支援します。また、センターの知見を活かし、より現場のニーズに即したロボットの開発・改良も支援します。

支援内容

- 施設課題の抽出、整理
- 課題の解決が期待できるロボットとのマッチング
- 社会課題の解決に資するロボットの開発支援

導入実証支援

最大 500万円 × 複数件

開発支援

1,500万円 × 採択件数 4件程度



ロボット実装促進センターの3つのポイント

① 相談サポート

コンサルタントによる課題の整理・解決に向けたアドバイス



② マッチング・サポート

施設がかかえる課題を解決するロボットのご紹介



③ 導入実証サポート

施設の特徴にあうようロボットの改良・開発を支援



2 実証実験施設 プレ実証フィールド（無料）

相模原市内にある元県立高校の体育館やドローンネット、模擬道路といった広大な敷地を利用して、実際にロボットが使用される環境での実証に備えた「プレ実証」を行うことができます。



◀ 屋外（ネット内）でのドローン飛行実験も可能

問合せ ▶ B



2 生活支援ロボットデザイン支援

次世代社会で活躍する生活支援ロボットの開発プロジェクトに対して、デザイン事業者と共に、製品コンセプトづくりから試作開発まで一貫した総合支援を行います。



小川優機製作所
Puliro（フリーロ）

支援テーマ

採択件数 3件程度

80万円～200万円

問合せ ▶ C



2 国との規制緩和に向けた協議

ロボットの実用化に向けて必要となる規制緩和について国との協議を行い、実証実験をサポートし、支援を行います。

【実施例】 国との協議を通じて、屋外での使用が認められていない電波（UWB）を使用した実証が可能に。



がれきに埋もれた被災者を探索するロボット ▶

問合せ ▶ D